



「愛着障がい」にどう支援すれば…。

昨年度1月のSTEPにてお伝えした、「愛着障がい」についての反響がたくさん寄せられました。「『愛着障がい』について、校内研修がしたい。」「関連する書籍はありますか？」などなど…。その中でも、「『愛着障がい』かもしれない子に、どう支援すればよいか？」というご相談が増えています。「これまでの経験では通用せず、特別支援の一般的な支援方法もマッチせず…。どうしたらいいの。」これが、日々悩まれている先生方の切実な思いではないでしょうか。今回は、「愛着障がいの支援方法」について考えてみましょう。

STEP R3.1.15号
「それって、もしかして『愛着障がい』かも…」
は、嶺南教育事務所HPからバックナンバーにアクセスできます。



レオ先生

「愛着障がい」について、復習しましたよ。
信頼できる大人とのゆるぎない絆が「愛着」なんですよね。
例えば…見知らぬこわい人がいたら、大人が抱っこしてくれて危険から守ってくれたり…。
転んで痛い思いをしたら、大人が「痛かったねー。大丈夫だよー。」といやしてくれたり…。
外で、勇気を出して頑張ったことを大人に報告したら「えらいねー。」と言ってくれたり…。
信頼できる大人とのゆるぎない絆を形成したという、幼いころの経験があるからこそ、自分でなんとかしようという今の自分がある。
でも、そういった経験が足りないと「愛着」が形成されず、その状態が「愛着障がい」になるかもしれないんですよね。

さすが、学び続ける教師、レオ先生！



えへへ。

和歌山大学の米澤好史先生は、「愛着」のことを「特定の人と結ぶ情緒的な心の絆」とおっしゃっています。そして、この愛着の問題を3つの「**基地機能**」で説明されています。

- ◇ 悪いことを認めたときに **ピンチから絶対に守ってくれる「安全基地」**
- ◇ 素直に認めて落ち込んだ「ネガティブな感情」を **「ポジティブな感情」に変えていやしてくれる「安心基地」**
- ◇ 「今日、学校でこんなことをしちゃったけど、勇気を出して謝ったよ」と、 **報告して認めてほしいと思うような「探索基地」**

この3つの基地機能をもつ大人がいないということになれば、自分で自分を守るためにどんなことでもせざるを得なくなり、不適応行動がでてしまいます。それが、**愛着障がい**です。
愛着障がいの子どもたちは、おそらく必死にもがいているのでしょう。



安全・安心という基盤がないと、些細なことも怖くて、チャレンジしようという気持ちが芽生えるのは難しそう…。そういえば、私の学級のAさんは、すぐ嘘をついたり、「どうせ僕は…。」が口癖だったりするなあ…。不安なんだろうな…。

Aさんが愛着障がいであれば、そうかもしれません。『嘘をつく』という行動に出るのは、「安全基地」「安心基地」ができていないので、自己防衛のために正当化する行動です。誰も守ってくれないので鎧を着て、身を守っている状態です。嘘をつくことはいけませんが、問い詰めることは、鎧を無理やり脱がせようとする事なので、Aさんは頑なになることが予想されますね。

「安全基地」「安心基地」を作り、自己肯定感を高めることが大切です。





うむむ…。ハードルが上がったような…。

あと、とっても多動なんですけど、時間や対応する先生によって態度が変わるんですね。机のまわりは散らかっていて、片付けるように言っても聞かないし。ADHDなのかな…。

多動であったり、片付けができなかったりすると、発達障がいである「ADHD」が疑われますが、「愛着障がい」でも同じような行動が見られます。でも、できない理由が違っているため、状態や支援方法が変わってきます。

多動になる理由

愛着障がい

不安・嫌悪などの感情に左右され多動になる
→ムラのある多動

ADHD(注意欠如多動症)

多動自体が症状
→常に多動

片付けができない理由

愛着障がい

片付けのよさが分からない
感情が育っていない

ADHD(注意欠如多動症)

集中して行動に向かえない

【感情の問題】

支援…行動・認知・感情を教える。
「片づけると物の場所がすぐわかって便利だね。すっきりして気持ちいいね。」

【行動の問題】

支援…視覚支援
スモールステップ
褒める

ちなみに、「ADHD」や「愛着障がい」などの診断は医療機関が出すものです。お知りおきを…。



感情に関係しているとか、感情が育っていないとか、「感情」がキーワードなんですね。

その通りです。感情が育っていないのが「愛着障がい」なんです。

友達に傷つけてしまった時、「こんなことされたら、どんな気持ちになるか、考えてごらん!」と指導することはありますか?愛着障がいのお子さんは、どんな気持ちか想像できないので、「分からん!」と怒り出してしまいます。気持ちを問うのは、NGです。

感情を教える支援が必要となるのですが、それをするのが「キーパーソン」です。



キーパーソン?なんか、責任重大な感じがするんですけど、誰がするんですか?

その子のことを一番知っている人がキーパーソンになります。常に一緒にいなくてもいいし、誰でもなれます。でも、その子のことを一番知らないといけなないので、周りの先生方が、「体育の時間、AさんはBさんを励ましてくれましたよ。」などと、キーパーソンに本人の頑張りを素早く伝えます。キーパーソンが先手支援をするためです。そうすると、本人からの報告がある前に、「体育で頑張っていたんだってね。」とキーパーソンから先に声かけができます。

この人といると心地よい・この人と行動すると前向きな気持ちになれるという、ポジティブな感情を育ててあげるのです。



なるほど。キーパーソンの支援についてもっと詳しく知りたいな。

ぜひ、夏休みの自由研究に! ❤️

【参考書籍】

「やさしくわかる! 愛着障害—理解を深め、支援の基本を押さえる」

米澤好史 ほんの森出版

「愛着障害・愛着の問題を抱えるこどもをどう理解し、どう支援するか?

アセスメントと具体的支援のポイント51」

米澤好史 福村出版



ううっ、頑張ります。

さらに学び続ける教師、レオ先生であった。